『蒙疆文学』1942～44年
—蒙疆文芸懇話会機関誌

全五+別巻
［復刻版］

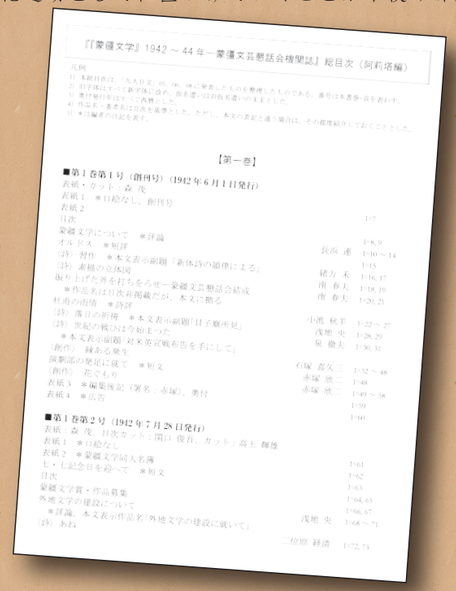
外地・植民地における文学・文化活動のありようを
考察するための貴重な雑誌。

編・解題者紹介
阿莉塔（ありた）
1963年生。浙江大学外国語学院准教授。

『蒙疆文学』という雑誌は一方で、きわめて政治的な文脈を持っており
同時代の政治状況と切り離せない性質を持つ

しかし、同時に、雑誌各同人がそれぞれの文学世界を開花させるべく
様々な試行錯誤がなされている

このような「無名な」作家たちの活動をさらに詳しく考証し
政治的な側面から捉えられることの多かった植民地文学の記録を
ひとつの文化運動として位置づけていくことが今後の課題となる


『「蒙疆文学」1942～44年—蒙疆文芸懇話会機関誌』総目次（阿莉塔編）

凡例

1. 本総目次は、「大人百文」（90、96、108に収載）たちの手帳にたちのである。番号は本書巻・頁を表わす。
2. 目次作成はすべて新字体に改め、仮名遣いは原拠通りのままとした。
3. 漢字変行等はすべて西暦とした。表記遣いは原拠通りのままとした。
4. 作品名・著者名は西暦を基準とした。ただし、本文の表記と違う場合は、その程度紹介しておくことにした。
5. ＊は編者の注記を表す。

【第一巻】

■第1巻第1号（創刊号）（1942年6月1日発行）
表紙・カット：森 茂
表紙1　＊口絵なし、創刊号
表紙2
目次　1-7
蒙疆文学について　＊評論　1-8,9
（詩）野性　＊本文表示副題「新体詩の韻律による」　長岡 達　1-10～14
オルドス　＊短評　1-15
（詩）蒙古の立体図　緒方 禾　1-16,17
仮り上げた名を打ちあらせ　＊作品名は目次非掲載だが、本文に掲る　南 春夫　1-18,19
杜甫の雨情　＊詩評　南 春夫　1-20,21
（詩）落日の祈祷　＊本文表示副題「日子頌所見」　小酒 秋美　1-22～27
（詩）世紀の戦ひは今始まった　浅地 央　1-28,29
＊本文表示副題「対米英宣戦布告を手にして」　泉 徹夫　1-30,31
（創作）練る石敷き　石塚 喜久二　1-32～48
演劇部の発足に就て　＊短文　赤塚 欣二　1-49
（創作）花ごもり　赤塚 欣二　1-49～58
表紙3　＊編集後記（署名：赤塚）、奥付　1-59
表紙4　＊広告　1-60

■第1巻第2号（1942年7月28日発行）
表紙：森 茂、目次カット：開口 俊治、カット：高玉 輝雄
表紙1　＊口絵なし
表紙2　＊蒙疆文学同人名簿　1-61
七・七記念日を迎へて　＊短文　1-62
目次　1-63
蒙疆文学賞・作品募集　1-64,65
各地文学の建設について　1-66,67
＊評論、本文表示作品名「外地文学の建設に就いて」　浅地 央　1-68～71
（詩）あれ　二位原 経清　1-72,73

資料としての外地の文化雑誌

本誌には「日語版」と「満語版」があり、
統一した「国語」を創出しようという熱意や
日中双方の「国語」に対する認識のズレも読みとれる。
内容は言語学のみならず文学・映画・放送・民族学・教育など
文化領域全般に関わり、読者と研究者の多様な要望に応え、
なかでも「満語版」の稀覯性は極めて高い。

『『満洲国語』—「満洲国」の言語編制』全六巻
編・解題—岡田 英樹・大久保 明男
揃　　価—99,800円

推　　薦—石川 巧（立教大学）
造　　本—A5判・糸上製函／並製（別巻のみ）　総1,680頁
価　　格—全巻揃価99,000円（配本毎分売可）

【第一回配本】2018年5月　40,500円
ISBN978-4-907236-92-2
第一巻（320頁）……『蒙疆文学』1巻1号～1巻5号
（1942年6月1日～11月20日）
第二巻（334頁）……『蒙疆文学』1巻6号～2巻2号
（1942年12月11日～43年2月1日）

ISBN978-4-907236-95-3（別巻のみ分売可　1,500円）
別巻（40頁）……＊解題・総目次・索引

【第二回配本】2018年10月　58,500円
ISBN978-4-907236-93-9
第三巻（280頁）……『蒙疆文学』2巻3号～2巻5号
（1943年3月1日～5月13日）
第四巻（338頁）……『蒙疆文学』2巻6号～2巻8号
（1943年8月1日～10月1日）
第五巻（370頁）……『蒙疆文学』2巻9号～3巻5号
（1943年12月25日～44年8月15日）

Kanazawa Bumpokaku
金沢文圃閣
〒920-0867 金沢市長土塀2-16-30
Tel 076-261-8884　Fax 233-3111
□書店様へ…ありがとうございます
直接小閣までお申し込みください

図版はすべて本書より
価格は税別　049／05／4000

※入力変換標準機能では「疆」ではなく「彊」であるため、副題ではあえて「疆」の字を使用した。

『大東亜南方圏地図帖』（1944年）より

「蒙疆」とは歴史的概念である。
日中戦争期に設立された日本の傀儡政権である
「蒙疆政権」の管轄範囲を指す。
面積は内地の本州・九州・四国と植民地・朝鮮を合わせたものに匹敵。
人口五百万人のうち「日本」（「半島」・「台湾」含）人は
「蒙疆」全地域では四万人いた。
1941年アジア・太平洋戦争開戦以降、
「蒙疆」は南方で戦う日本軍の資源供給地としてその存在感を増す。
「蒙疆」政権は1937～45年敗戦まで8年の歴史を持つが、
「満洲」と比較して言及される割合はきわめて少ない。
これまでほとんど触れられてこなかった「蒙疆」という地域。
『蒙疆文学』は、錯綜した社会・言語・民族関係のなかで誕生し、
その名称さえ近代文学・文化研究者には知られておらず、
植民地文化史研究上の大きな空白となっている。

純文学雑誌にとどまらない
〈蒙疆唯一の文化雑誌〉
戦時期三年間の遺された軌跡。

日中戦争の中、作り上げられた「蒙疆」という特殊空間
そこでは「蒙疆」文学を提唱した文芸団体が実在し
その「蒙疆」文壇からは芥川賞受賞作もうまれた

「満洲国」とならび〈楽土〉と称された「蒙疆」。

『蒙疆文学』1942～44年
—蒙疆文芸懇話会機関誌
全五+別巻
［復刻版］

編・解題……阿莉塔

金沢文圃閣

◉「大東亜共栄圏文化」はいかにして建設されたのか

—『『蒙疆文学』1942〜44年—蒙疆文芸懇話会機関誌』推薦文

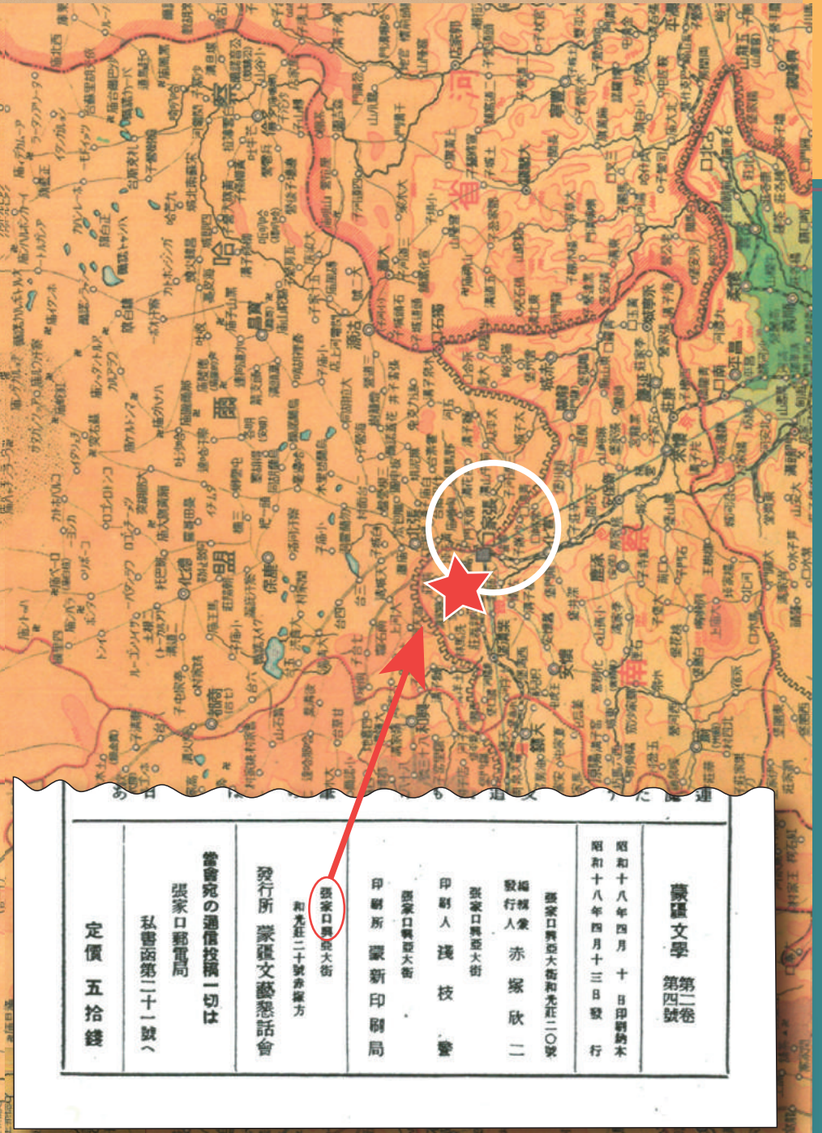
石川 巧

1929年の世界恐慌以降、主要輸出品だった繭の価格暴落と凶作が重なり極度の経済不況に陥った日本は、疲弊した農村経済を立て直すため自治体単位での満蒙移民政策を推進する。日本帝国陸軍の満洲駐留部隊（関東軍）がしかけた柳条湖事件を発端とする満洲事変（1931年）、「五族協和」と「王道楽土」をスローガンに掲げる「満洲国」の建国（1932年）、そして、「満洲国」不承認決議を不服とする国際連盟からの脱退というプロセスを経て「満洲農業移民二十ケ年百万戸送出計画」を決定した政府は、「拓け満蒙！行け満洲へ！」というスローガンを掲げて移民を国策に位置づける。こうして組織された満蒙開拓団は約二七万人にも及ぶ。『蒙疆文学』は蒙疆文芸懇話会のメンバーを中心に創刊された同人雑誌だが、その内容を見ると、評論、詩歌、小説、随筆といった文芸作品と並んで紀行文、ルポルタージュ、現地事情なども多く、編集の目的のひとつが蒙疆における文化運動の推進、および現地の地政、風土、農作物、資源などを精しく調査し、産業拡大を図るための基礎資料を蓄積することにあったことがわかる。

また、日本の傀儡政権である蒙古連合自治政府の体制を盤石にするためには、日本語を広く流通させ、日本語の表現、思考を定着させていく必要があった。外地に暮らす人々にとっての日本語雑誌は、映画、演劇、ラジオと並ぶ娯楽のひとつであると同時に、祖国とのつながりを確認し、生活の不安や苦悩を取り除く貴重な手綱だった。『蒙疆文学』の同人代表が大東亜文学者大会に招待されたこと、蒙疆文学賞に入選した石塚喜久三「纏足（チャンズウ）の頃」（第2巻第1号）に芥川賞が与えられたことからもわかるように、その背後には日本文学報国会の影がちらついている。

かつて、大東亜共栄圏文化の建設をめざした日本は『蒙疆文学』を武器に人々の思想や意識を操作しようとした。私たちは、そのような負の遺産を掘り起こすことで、〝都合の悪い真実など忘れてしまえ〟という悪魔の囁きに抵抗し続けなければならないのではないだろうか。

（いしかわ たくみ／立教大学文学部教授）



「蒙疆文学」とは、「蒙疆政権」（1937〜1945年敗戦）時期の
「蒙古＋蒙疆」を主題とした日本語文学をいう。

「楽土蒙疆」建設というスローガンを掲げた「蒙疆政権」は、
「第二の満洲国」とも呼称された。

「戦前　蒙疆関係年表」

1911　外蒙古がジェブツンダンバ八世を皇帝に推戴して独立を宣言
1922　日本張家口総領事館を開設
1930　日本東亜考古学会、張家口・シリーンゴルを踏察
1931　関東軍は通遼を占領。対蒙工作を展開
1933　東京で「日蒙協会」創立。同年その後、「善隣協会」と改称。
　　関東軍承徳特務機関を設立
1934　参謀本部依託蒙古留学生10名が来日、善隣協会により世話。
　　満州国興安総署を蒙政部に改称
1935　「善隣協会専門学校」創立。
　　善隣協会が東京で「蒙古学生部」及び善隣学寮を開設、
　　モンゴル人留学生を世話・ 教育。張家口日本人小学校が領事館内に開設
1936　善隣協会が「蒙古学」創刊
1937.7　日中戦争のはじまり
　.8　日蒙軍が張家口を占領
　.9　察南自治政府が成立
　.10　関東軍司令部が蒙疆政権樹立を立案。晋北自治政府が成立。
　　蒙古連盟自治政府が成立
1938.1　杉森孝次郎「北那蒙疆訪記」を掲載（「改造」）
　.5　蒙疆における新聞通信の統制機関である蒙疆新聞社、張家口に発足
　.7　第三回蒙古大会で徳王を政府主席に推挙
　.7-8　京城帝大・蒙疆学術探検隊、蒙疆にて踏査
　.8　張家口放送局、本格放送を開始
　.10　徳王が第一回日本を訪問
1939.5　ノモンハン事件
　.6　張家口—東京間、無線電信を開設。
　　矢野仁一「蒙古の過去と将来」を掲載（「東洋史研究」）
　.9　蒙古連合自治政府成立、最高顧問 金井章二、主席徳王
　.10　興亜院など政府機関、蒙疆鉱産資源を調査
1940.12　張家口に市立日本語学校を設立
1941.4　徳王が満州国を訪問
　.10　靖国神社臨時大祭、首都張家口で遥拝式を行う。
　　日蒙華経済懇談会が北京で開催
1942.2　張家口日本商工会議所設立
　.4　蒙疆のラマー行が日本視察を開始
　.7　満州建国大学蒙疆班が蒙疆に
　.10　蒙疆日本人興亜協力総会が結成
　.11「大東亜省」が発足
1943.1　蒙疆日本配給組合連合会が発足
　.2　映画「成紀七百三十七年」完成
　.5　日本より1億元信用借与、東京で調印
　.6　「重要産業統制」及び「国防資源統制令」を公布
　.7　蒙古文化人決戦大会が開催
　.8　青木大東亜省大臣が蒙疆に訪問
　.10　蒙疆銀行と横浜正金銀行間特別円勘定に協定
　.12　蒙疆政府弘報科と華北電映合作『回教徒』を封切り
1944.1　張家口特別市日本語教育研究会が発会式
　.2　蒙疆滞在日本人生活必需物資臨時配給統制を実施
　.6　蒙疆政府文教科は邦民体操日を規定。
　　第5回大陸連絡会議、張家口で開催、日満蒙華代表が出席
　.8　蒙疆政府政務院訓令、主席の命令によって、
　　蒙古官民の散髪、蒙漢回民女子のピアス、漢回民女子の纏足などを禁止
　.10　蒙疆政府弘報科、演劇座談会開催、日本演劇協会から専門家を派遣
　.12　首都で日蒙親和を促進するため、善隣週間を開始
　.12　第五次語学検定を実施、日本語合格者287名
1945.8　ソ連・外蒙連合軍は内蒙古に侵攻
　.9　内蒙古人民共和国臨時政府が成立

祁 建民「蒙疆政府年表」より